

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市中学校】

令和7年4月に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の中学校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「理科」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

*出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本市生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について [※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較]

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数 学	学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
理 科	学習指導要領の目標及び内容に基づき、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の各領域を横断した問題を出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

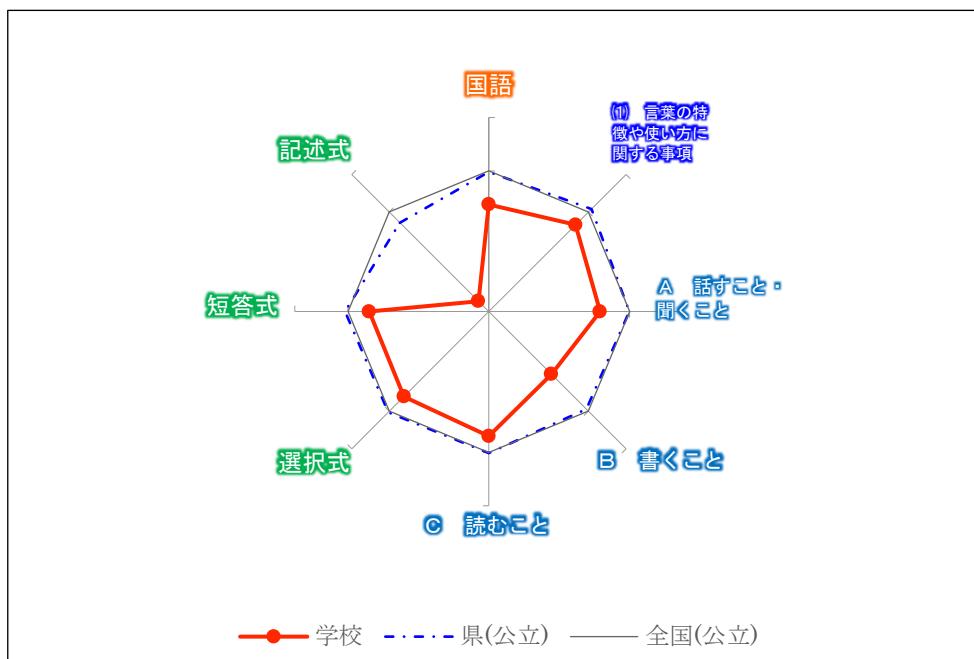
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



【特徴と現状】

「記述式」の問題について、正答率が昨年度よりも大幅に下がっています。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「読むこと」の正答率が、県平均や全国平均と比べ差がありました。令和5年度から令和7年度の3年間で見ると、全国の平均正答率に近づいています。

「書くこと」の区分で出題された、「手紙の下書きを見直し、修正したほうがよい部分を見つけて修正し、修正したほうがよいと考えた理由を書く」問題では、全国平均や県平均を大幅に下回っておりました。相手意識をもって、表記や語句の用法、叙述の仕方などを整えることに課題があると言えます。

また、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかみる問題では、無回答率が約半数にのぼり、自分の考えを書くことに対する課題がみました。

【改善方策等】

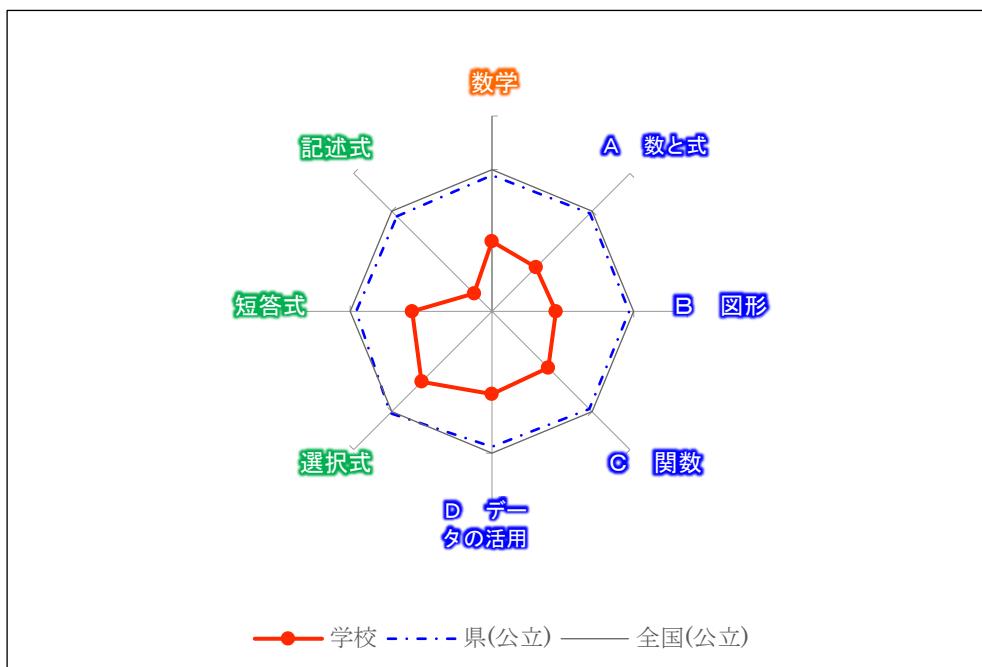
記述式問題に慣れることができるように、定期テストや日々の授業で短文の記述問題に取り組む機会を増やしていきます。

また、「部分点」を意識した採点を行い、解答への自信が持てるようになります。ICTを活用して意見交流を行い、他の生徒の意見を参考にする活動を取り入れます。また、授業内では生徒自身に自分の解答を振り返る習慣をもたせ、「どこが改善できるか」を考える時間を設けるようにしていきます。

目的意識や立場を明確にした授業、作文活動を行い、学習に対する主体性を育てながら、様々な立場による考え方の違いを意識させていきます。

デジタル教材を活用し、グラフやデータから情報を読み取る機会を増やします。また、プレゼンテーション形式の活動を導入し、情報を整理し相手に伝えるスキルが高められるようにします。

数学



【特徴と現状】

数学科全体の正答率が、全国平均と比較して下回っています。

全国平均や県平均と特に差が大きかった「図形」区分で課題があります。多角形の外角の意味や平行四辺形の特徴やその証明について理解が不十分であることがわかりました。また、图形に新たな条件を加えた際に成り立つ関係について証明する問題では、特に難しさを感じていることがうかがえました。

式の意味を読み取って説明したり、「確率」について特定の事象起こりやすさを説明したり、图形の証明をしたりするために考えを記述して答える問題では、それぞれの問題で無回答が約半数にのぼり、課題がありました。

課題が多いなかですが、「選択式」の回答では、正しい素数を選んだり、グラフから必要な情報を読み取ったりする問題で、全国平均に近づいてきています。

【改善方策等】

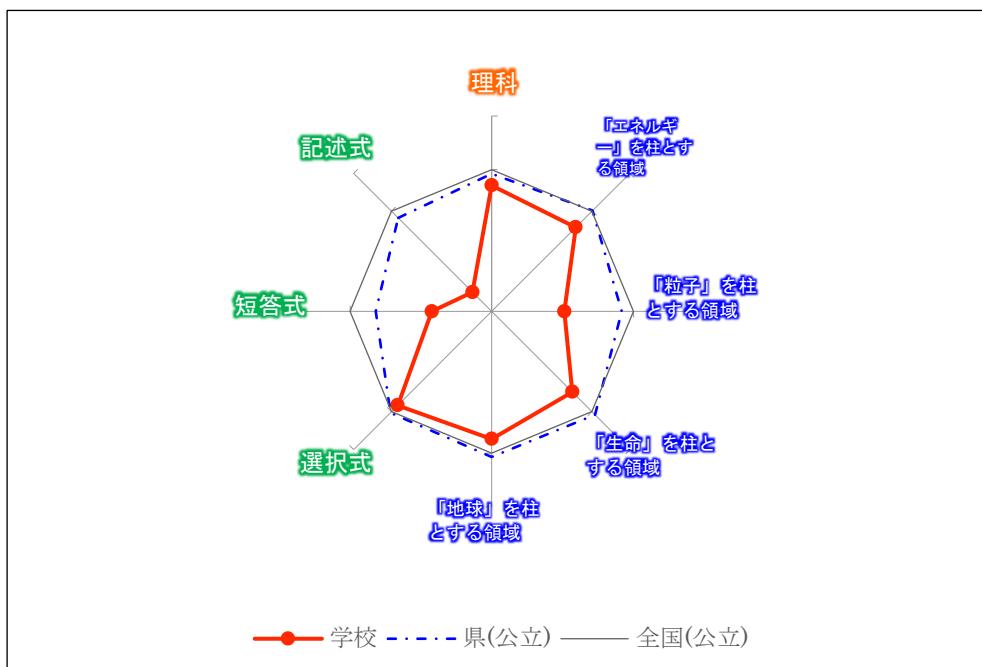
「数と式」の領域については、「とみの国検定」を継続して行い、数学科における知識・技能の確実な習得に努めます。

また、反復練習や小テストを定期的に実施し、基本問題を確実に解ける力を育成したり、個別指導や少人数グループでの活動の機会を増やしたりして、学習内容の確実な定着を図っていきます。

「記述式」の問題に対応するために、とみの国検定に取り組ませながら、タブレットやノートに記述したそれぞれの考え方についてICTを活用して顕在化し、共有したり協議の材料としたりすることで説明する力を育てながら、知識理解を深めることができます。

授業において实物の模型やICT教材を用いて图形の性質を生徒が視覚的に理解できるようにします。また、生徒が图形を正しく理解できるよう、基礎的な用語や定理の理解を確認する小テストを定期的に行い、確実な定着を図ってまいります。

理 科



【特徴と現状】

令和7年度は従来の一斉テスト方式ではなく、IRTスコア（項目反応理論：異なる問題を用いて検査し、学力を同一尺度で評価するための統計理論）を利用した検査を実施しました。受験日程により、異なる問題を用いて検査し、正答誤答を問題の難易度で区別して分析しました。

「地球」を柱とする領域で、気圧に関する身近な事象をもとに、気圧の概念を問う問題や、地層について地層を構成する粒の大きさから水の染み出方について全国平均と同等に解答することができました。

「粒子」を柱とする領域についての調査では、ガス警報器の設置場所が異なる理由を実験の様子から導き出すことや、気体の性質に関する知識から火災に対する適切な避難行動を選択することができました。しかし、元素記号を記述する問題や身の回りの事象から課題を設定したり、探求から生じた新たな疑問について見出したりして記述する問題には正答率が低い傾向がありました。

領域問わず、難易度問わず、記述による解答を行うものでは、全国平均と比較すると無回答率が高くなっています、課題がありました。

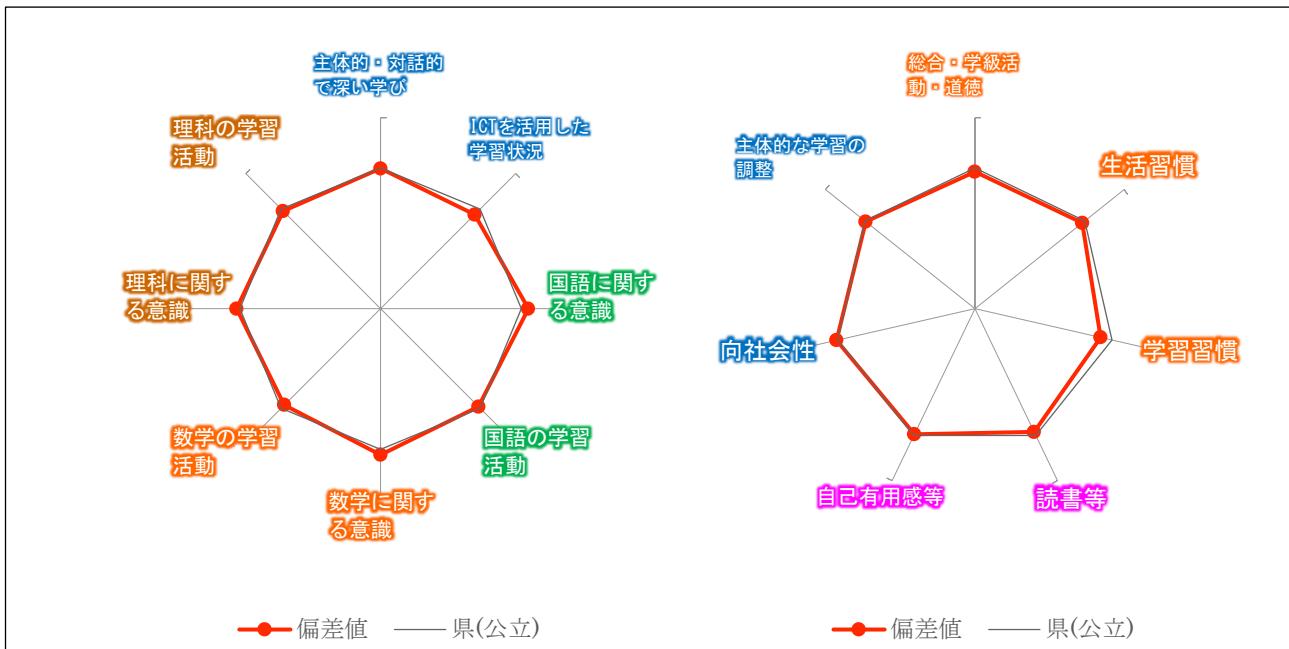
【改善方策等】

授業では、生徒が感じる疑問から、問題を見出させたり、予想をもたせたりする活動を大切にしたり、実験結果から自分の言葉を使って考察したり、まとめたりする時間を確保することで、自分の考えをもち、記述することに慣れさせていきます。

さらに、それぞれの考え方をICTの活用を通して、協議したり検討したりすることで、問題に対して主体的に関与させながら、学習内容理解を深めていくようにしていきます。

「粒子」を柱とする領域に課題がありました。元素や化学変化については、目に見えないもののが多いため、教科書を基本としながらインターネットを利用して調べ学習や映像教材を利用し、言葉だけでなくイメージをもつことができるようになります。

(3) 生徒に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

全国平均と比較して、国語・数学・理科の学習にたいして意欲的であり、生活に生かそうとしている生徒が多いことがわかりました。

特に算数や理科の学習は生活場面での活用をしていると答えています。

ICTを活用した学習状況について、学習で利用する機会は多いが、グラフや図表から情報を整理したり、自分の考えやまとめたことを発表するプレゼンテーション資料をつくったりすることに関しては、苦手意識をもっていることがわかった。

学習習慣についてはやや低く、学校の授業以外では、勉強をする時間は比較的少ないことがわかりました。

3まとめ

どの教科においても、引き続き「記述式」の問題に正答することに課題が見られます。経年の結果を見ますと年度によって正答率に差が見られるので、どの教科の授業においても理由や根拠を基に相手へ伝えることを目標にした上で、グループで考えを共有し、それぞれの意見を取り入れて自分の答えをブラッシュアップする活動や、他者の意見を活用して自分の考えを深める機会を意図的に作る必要があります。

また、学びを下支えする力となる「文章をまとまりとしてとらえる力」や「語彙量」、「基礎基本的な計算能力」の確実な定着を図るために、年間を通して「とみの国検定」や各授業における既習事項の復習を行います。

子どもたちが心身ともに健やかに成長するためには、学校だけでなく、家庭との連携が何よりも大切です。家庭と学校が協力し合うことで、子どもたちの未来への可能性をより一層広げることができます。引き続き、各御家庭での御支援・御協力をよろしくお願いいたします。